



～きたながせスープとは～

「市民一人ひとりのチャレンジを重ねて合わせて煮込んでコトコト公園をつくる」ことをコンセプトに「操車場跡地にできる新公園を活用する市民の会」が岡山市と協働で実施しています。JR北長瀬駅に建設される新公園を「もっと市民が活用できる場にしたい」という思いをもった人たちが中心に公園活用に関するアンケート調査も行い、2017年8月に立ち上がった団体で、「きたながせスープ」ではマルシェや子どもの遊び場、農園イベントとして春の野菜の植付け、秋のイモ掘りや旬の野菜収穫を行い、その場で中学生達が調理し振る舞い、参加者が食を通じて触れ合いながら、未来の公園を目指して夢の実践を行っています。

～取組み内容～

- ①きたながせスープ: 年に2回実施しているメインイベント。春には開墾作業や種まきを、秋にはイモ掘り、ダイコンやカブなどの収穫体験を行っています。収穫した野菜で、スープを作り、イベント参加者にふるまっています。同時に、マルシェや子どもの遊び場、ヨガ、腕相撲大会などを実施し、新公園の活用を話し合ったり、実践する場となっています。イベントは、市民の会会員の他、中学生ボランティア達が中心となって運営をしています。
- ②定期イベント: 1～2か月に1回開催。講師を招いた勉強会やミーティングを行っています。
- ③通常活動: 毎週土曜日の午前中に農園の野菜の手入れや草刈りなどを行っています。同時に農園の中で子どもの遊び場作りも行っています。

～協働での成果～

もともと多種多様な団体と地域住民から組織される市民の会と、岡山市が協働関係を築くことで、様々な市民が主体性を持って、公園のより良い利活用方法の検討、実践をすることができています。新公園建設完了前に市民による公園活用に向けたコミュニティが醸成されることで、完成後のスムーズな運用、利活用が期待できます。